東電福島第一原発事故対応における放医研の活動、役割、今後の展望

（明石真言、Mook 6 放射線災害と医療 II、医療科学社 2012、p.29-40）

2016 年 1 月 15 日、災害医学抄読会　http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/

○独立行政法人　放射線医学総合研究所（放医研）とは

１９５７年創立以来放射線と人々の健康にかかわる総合的な研究開発に取り組む国内唯一の研究機関。防災基本計画、国民保護法にて指定公共機関として定められており、国および東日本ブロックの３次被爆医療機関として活動してきた。

○放医研の実際の活動内容

チェルノブイリ原発事故での帰国者検診・ＪＣＯ臨界事故での線量評価、診断と治療と住民対応・２００７年国立大学被爆事件での線量評価等・洞爺湖サミットＲテロ医療体制構築・ＡＰＥＣ２０１０Ｒテロ医療制度構築・東日本大震災に伴う原子力災害への被爆医療など

○福島第一原子力発電所事故への対応

・医療チームの派遣：自衛隊機を使ったスタッフ搬送
・オフサイトセンターでの活動：現地で対応してきた方の汚染検査、健康チェック等
・緊急医療被曝体制の運用：全国の大学、大学病院、被爆医療ネットワークへ患者受け入れ要請
・スクリーニングと検査対応：現地で対応する警察、防災関係者、住民の汚染検査
・住民お一時体入り支援：専門科による被災地入り時の支援
・専門機関としての助言・支援：消防庁、自衛隊、警察、海上保安庁へ安定ヨウ素剤の提供、搬送担当者の教育、放水時の放射線防護

○汚染患者搬送での問題点

・放医研の認知不足、しっかりとした役割が定まっていなかったこと
・放射線管理要員の存在と役割
・着実な被爆医療を実行できる体制